

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 12 章 54～59 節＞

1 (54-56) 何を言われたいのか？ 「偽善者」と「今の時」の意味は？

イエス様は、天気の見分け方について誰でも知っていることを言われた後、「偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか」(56)、とされました。何を言われたいのでしょうか？ 「今の時」とは、ここまでイエス様が話されてきたことを考えると分かります。それは、イエス様が現れて色々な話を語られ行為を為された今この時を指しています。それによって見分ける（正しい判断をするの意）べきことは明らか、神様の方に向き直す（悔い改める、回心する）ことではないか、だのにどうしてそれが分からないのか、知らないのか、否、分からない、知らないのではなくて、判断を使い分けているのだ「偽善者よ」、とされているのです。

2 (57-59) 何を言われたいのか？ 登場人物たちは誰を指すのか？

この話も問題は、イエス様は何を言われたいのかです。単に「仲直りしなさい」という話ではありません。「あなた」は、訴えられて裁きを受けると牢に入れられることがはっきりしている人間、つまり罪人です。それは誰のことを指すのか？ イエス様は群衆に向かって話されています(54 節から)。つまり、皆に向かってであり、そこに私たち自身も入れなければならないのです！ では、「途中でその人と仲直りするように努めなさい」(58)、とはどういうことでしょうか？ 「その人」とは私を訴える人、つまり私が罪を犯した人であり、「裁判官」は神様です。よって、ここでイエス様が言われていることは、私たちは神様の前に出た時に神様もよしとはされない罪を他者に対して犯している存在だということ、そのことに深く気づき、他者と神様に赦しを請いなさい、そのような正しい判断をする者となりなさい (57 節！「**あなたがたは、何が正しいかを、どうして自分で判断しないのか**」) ということなのです。

3 今の世界、今の自分の問題の解決への遠い近道がここにある！

さっと読むと、今の自分に関係なさそうな話です。しかし、今の世界、つまり争いが絶えず、さらに大きくなりそうな世界を思うと、悪者探しを超えた、人間全体の愚かさ、罪（神様の方を向いて生きていないの意）を考えさせられますし、神様が与えて下さったイエス・キリスト（今の時）の大事さを思われます。神様から行くべき道を示されたこと、よってその道に行くことに確かな希望もあるのです。